

12/5 公聴会で発言しようと思っていたのですが、技術士会防災研究会の豊岡水害調査と重なるため、意見のみにします。

余野川ダムについての概要報告、拝見させていただきました。治水面について、ダム流域が小さいことや、遊水池などの代替案があるのかについて、議論されていました。

これまでの余野川下流部の治水計画は、ダムを前提に、数多くの農業取水用頭首工が河床は掘削しないで立てられていました。頭首工は多様な水空間を形成しつつも魚類の遡上障害になっていますが、ダム無しなら、頭首工の一部を自然の変化ある水域を活かしつつ洪水時は可動堰になるようにし、河床を掘削することも考えられます。

余野川ダムによる平常時の水量減少は、分派堰下流で行われているアユの放流やマス類の釣堀に影響し、ダムを前提とした場合、レクリエーション漁場の整備や釣堀の石の配置を変えることで対応できるという結論が出ていますが、ダム無しの場合、頭首工があることによる魚類の生息環境や遡上障害を検討し、アユが繁殖できる条件を作るのが一つの目標になります。アユは神崎川のような流れの緩やかな所まで下って産卵できるのでしょうか、そとも上流部の大きな砂防堰堤、頭首工でも可能なのでしょうか？ 上流域の森林保全が言われていますが、水と緑の健康都市の緑地率を上げさせる、間伐材を漁場や必要箇所の魚道に使用するなど、地域経済を見据えた振興策が必要です。

河川の生態指標 HIR(Habitat Index of Morishita's)を治水安全度や利水、経済など人間生活の指標にも当てはめる方法を検討しています。余野川流域の方の要望を、また聞いてみたいと思います。